

単元名 「うごく うごく わたしのおもちゃ」 第2学年 (6) 自然や物を使った遊び (8) 生活や出来事の伝え合い

■本事例のポイント

- 1.「1年生を招待して『おもちゃランド』を開く」という単元のゴールを目指し、相手を意識して思いや願いを高めていく。
- 2.同じおもちゃや違うおもちゃを作っている友達、他学年、保護者と関わることで交流することのよさを味わう。

■単元の目標

身近にある物を使って、動くおもちゃを作り、伝え合う活動を通して、おもちゃがよりよく動くように改良したり、もっと樂しくなるように遊び方やルールを工夫したり、伝え合う相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりして、遊びの面白さや自然の不思議さ、身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付くとともに、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうしたり、進んで触れ合い交流したりしようとすることができる。

■単元の指導計画（17時間）

第1小単元

「つくりたいおもちゃをきめよう」

第2小単元

「うごくおもちゃをつくろう」

第3小単元

「もっとよくうごくおもちゃにしよう」

・個の気付きを共有することで、改良していくとともに、交流することのよさを味わう。

第4小単元

「あそび方をくふうしよう」

第5小単元

「おもちゃランドをひらこう」

第6小単元

「ふりかえろう」

■本時の概要

めあて：うごくおもちゃを パワーアップさせよう！



友達とアドバイスし合ったり、試したりしながら、おもちゃを改良していきます。

個の気付きを全体で共有することで、気付きの質を高めます。

そうすると、風を多く集められるね。ヨットカーは風の力で動くから…。

■学習調整をしている子供の姿

本やインターネットを参考に、おもちゃを改良している姿



自分のイメージでおもちゃを改良し、何度も試している姿



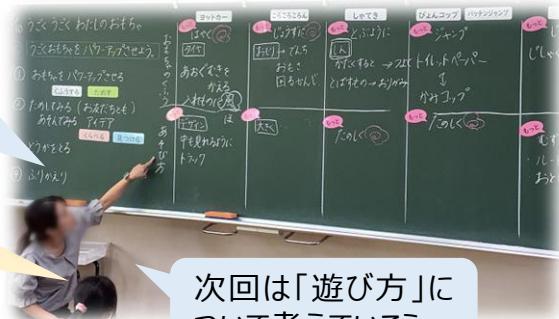
タイヤがうまく回らないから、別の物に変えてみよう。でもまたうまく回らない…。

タイヤを6個にしてみたけど、まだうまく進まない…。

新しく作った射的で挑戦してみよう。

「おもちゃの工夫」については、いろいろ考えてきたね。

まだ「遊び方の工夫」が足りない。



次回は「遊び方」について考えていこう。

■指導と評価の工夫

①うごくおもちゃをパワーアップさせる。

- * 前時に友達からもらったアドバイスを参考にしたり、本やインターネットで調べたりしながら、おもちゃを改良していく。
- * 友達と協力しておもちゃを改良したり、遊び方を考えたりしていく。どうしてそのように改良したか言語化する。
- * 作ったら試して、また更に改良していく過程を大切にする。

②試しに遊んでみる。

- * 違うおもちゃを作った友達とも遊んでみて、試したり、更にアドバイスしたりする。
- * おもちゃの動きが変わったことに気付く。



飛ばす物を、紙コップじゃなくてトイレットペーパーの芯に変えたよ。

トイレットペーパーの芯の方が高く飛ぶね。



おもりが軽いのかも。
坂を直した方がいいんじゃない。

③振り返る。

- * 個の気付きを全体で共有して、気付きの質を高める。
- * おもちゃの「遊び方」についても工夫することが必要だと気付く。

■成果 (○) と課題 (▲)

- 何度も試したり、失敗しても粘り強く作り替えたりするなど、主体的に活動に取り組む子供の姿が多く見られた。
- 「1年生を楽しませるため」という単元の目標を意識することで、違うおもちゃについても自分事として考えることができた。
- ▲子供のオリジナルな考えを大切にしていくために、インターネットの活用方法について考えていく必要がある。



Point!

■ 学習環境整備

子供が学習課題を選択・決定する場面

子供が自らの学習を振り返る場面の設定

- ・ICTや教室掲示による学習履歴が子供の自己調整や気付きの質の高まりにつながる。



前時の板書

- ・一人ひとりの学習履歴
 - ・思いや願いの表出
 - ・友達からのアドバイスや励ましの声 など

子供が学び方を選択・決定する場面の設定

- ・材料の種類や量、置き場所などを工夫することで、失敗しても「また別の方法で試したい」という思いが継続する。



- ・作業台
 - ・本、インターネット
 - ・豊富な材料



■合科的・関連的指導

〔國語〕

- ### * 話すこと・聞くこと

おもちゃの遊び方やルールについて、伝える内容や順序、1年生に分かりやすい伝え方などを考えて練習する。

- * 説明文（今後の学習予定）書くこと

おもちゃの作り方について、事柄の順序や、情報と情報との関係を考えながら、分かりやすく伝える書き表し方を学ぶ活動につなげる。

〔理科〕

- ## * 3年理科の学習内容 A 物質・エネルギー (2) 風やゴムの力の働き (4) 「磁石の性質」

身近な素材を使っておもちゃを工夫しながら作る活動を通して、風やゴム、磁石などの力の働きに自然と触れる。

おもちゃを作ったり改良したりする過程を通して、比較したり関係を捉えたり、量を意識したりすることができ、理科のエネルギー領域における「量的・関係的な視点」を育む機会となる。

【义画工作】

既習事項の用具の使い方を思い出し、カッターナイフを安全に使えるようにする。

紙コップと輪ゴムで作る「ぴよんコップ」は、今後の飛び出す動きから発想を広げる学習につなげる。

お店の看板作りや、おもちゃの装飾など、おもちゃの動きや遊び方に関すること以外は图画工作の時間に行うことで、見た目の楽しさにも視点が当てられるようとする。

■本時以降の様子

おうちに人に遊んでもらい、アドバイスをもらう（土曜参観）

おもちゃの作り方や遊び方を練り直す



小さい子に分かれりやすく伝えられるかな。



お客さんが集まってきた。どうしよう…。



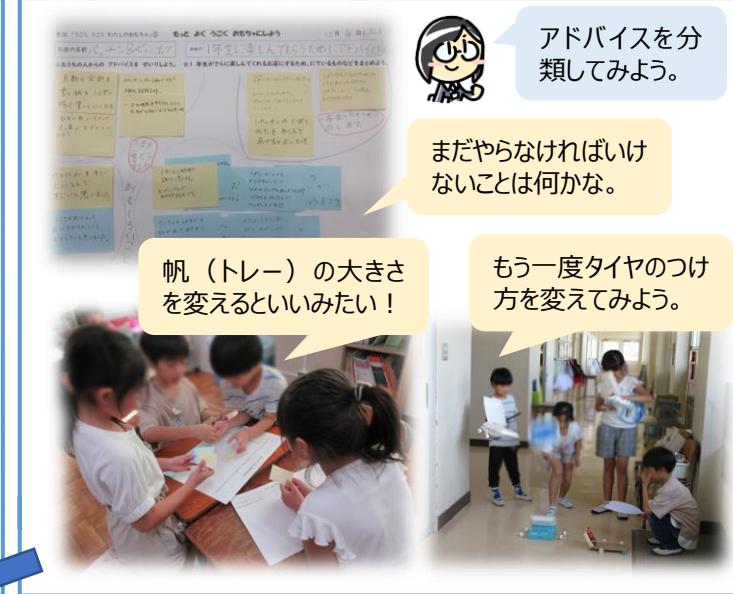
Point!
おうちにの人からアドバイス



おうちにの人からたくさん付箋をもらえるといいね。

【アドバイスの視点】
○おもちゃの動きについて
○遊び方やルールについて
(1年生招待に向けて)

黄色の付箋
↳アドバイス
青色の付箋
↳良いところ



アドバイスを分類してみよう。

まだやらなければいけないことは何かな。

帆（トレー）の大きさを変えるといいみたい！

もう一度タイヤのつけ方を変えてみよう。



2年生だけのおもちゃランド



他のクラスのお店に行ってみよう。



・おもちゃは同じでも、遊び方が違うことに気付き、楽しんでいる様子
・自分が作ったおもちゃに自信をもつて、遊び方を説明している様子



・相手が1年生であることを意識し、寄り添いながら説明している様子

・お客様の1年生が楽しんでくれている様子



ゴールした！やったー。



お気に入りのお店に何回も行ったよ。



・達成感を感じている様子
(振り返りワークシートより)

・1年生がよろこんでくれてうれしかった。
(1年生のこと)
・○○さんがいたから、うまくいった。
(友達のこと)
・○○したら、うまくいった。
(アドバイスをもらったこと、工夫を繰り返したこと)
・もっと○○したい。
(まだやりたいこと)